



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 岩崎弥之助時代の三菱財閥

### まえがき

岩崎弥之助は岩崎弥太郎の弟である。弥太郎の死後、三菱財閥が海運事業を譲渡して、明治18年9月に日本郵船の設立に参加した後、解散した郵便汽船三菱会社の後身三菱社の10社長に就任した。明治26年12月、会社法制定(7月)に対応して、三菱社が三菱合資会社に再編されると、甥(兄弥太郎の長男)岩崎久弥を社長に就任させ、彼を補佐して、監務として活躍した。三菱社社長であり、三菱合資会社監務である岩崎弥之助は、明治41年3月に死去するまで、三菱財閥の最高指導者であった。このケースでは、岩崎弥之助がトップ・マネジメントをリードした時代の三菱の事業展開とそれにかかる意思決定過程を取り上げる。<sup>15</sup>

### 1 三菱社の製鉄業進出計画

三菱社のトップ・マネジメントは、社長岩崎弥之助、管事川田小一郎の2名によってスタートし、明治21年12月にいたって、莊田平五郎が管事兼本社支配人としてこれに加わった。莊田は、明治18年9月、日本郵船が創立されると、同社理事に就任し、いったん三菱を離れた。12月に日本郵船理事を免ぜられ、翌年3月、三菱社本社支配人に就任して、三菱に<sup>(1)</sup>復帰した。そして、約二年半の後、本社支配人を兼ねたままで、管事に昇格したのである。

岩崎弥之助社長にとって、意思を通じやすく、信頼をおくるトップ役員は、川田よりも莊田であったようである。

川田も莊田も弥之助より年長であるが、弥之助にとって川田(天保7年、1836生まれ)と<sup>25</sup>

---

(1) 宿利重一『莊田平五郎』「年譜」、対胸舎、昭和7年、100頁以下。

---

このケースは、森川英正教授がクラス討議の基礎資料として作成したものであり、経営上の適切もしくは不適切な状況処理を例示しようとするものではない。なお、ケース中の固有名詞は偽装されている。(1990年4月作成)